



5th stage 合同演奏

男声合唱組曲「富士山」

作詩：草野 心平

作曲：指揮：多田 武彦

I 作品第壹

II 作品第肆

III 作品第拾陸

IV 作品第拾捌

V 作品第貳拾壹

ゆかり
東西四連との永い由縁

多田 武彦

1947年、旧制大阪高校に入学し、すぐにコーラス部に入った。そして関西での合唱祭や合唱コンクールに参加すると、何時も、同志社グリークラブや関西学院グリークラブの名演奏に圧倒された。

1950年京都大学に進んでからも、合唱を続けた私は、両グリークラブの演奏会に足繁く通い、宗教曲やスピリチュアルや邦人作品の名演に感動し続けた。

1952年、京大男声合唱団は初めて慶應義塾ワグネル・ソサエティー男声合唱団と早稲田大学グリークラブとの合唱交歓会を持った。慶應ワグネルの絶妙のアンサンブルや早大グリーのダイナミックな響きは、45年経た今も、鮮明に記憶している。

これらの名演奏を起点として、今まで56の男声合唱組曲を作曲することが出来た。

また、恩師清水脩先生(故人)の薫陶や、高雅な詩人の魂のおかげで、日本国中の合唱愛好のかたがたに

愛唱していただいた。

その中でも五指に入る「富士山」を、合同演奏のステージで指揮させていただくのは、本当に嬉しい。

清水先生からは、「歌曲や合唱曲を作曲するときは、詩自体にすでに音楽のある詩を厳選し、これに寄り添うように作曲すること。曲を大切にすあまり、詩の音楽を壊してはいけない。ましてや、詩人の了解無しに、勝手に詩を削除したり変更したりするのはもってのほか」と厳しく教示された。

この薫陶を遵守したおかげで、詩人草野心平先生(故人)はよく私に「自分の詩の心や感情の抑揚をよく掴んで作曲してくれているので、大変嬉しい」と喜んでおられた。

この合同ステージでは、若い学生諸君と共に「富士山をこよなく愛した詩人の魂」を、心行くまで歌い上げたい。